

情報社会

p.30の「テーマ別 時事キーワード」も参考にしよう。



インターネットは今や私たちの生活に欠かせない存在です。インターネットが私たちの生活にどのような影響をもたらすかを考察し、様々な課題にどう対処するべきかを考えてみましょう。

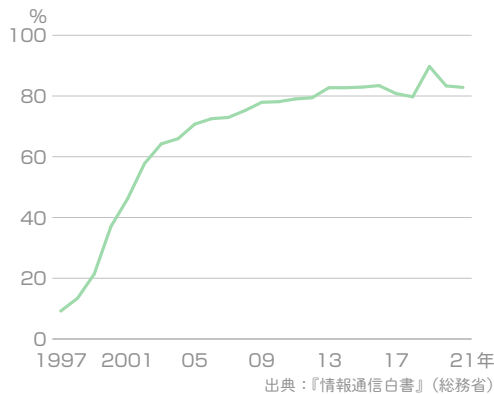
日本におけるインターネットの利用の広がり

インターネットの利用が広がった理由としては、光ファイバーなどのブロードバンド回線の普及、魅力のあるコンテンツ（動画やショッピング）の増加などが挙げられます。

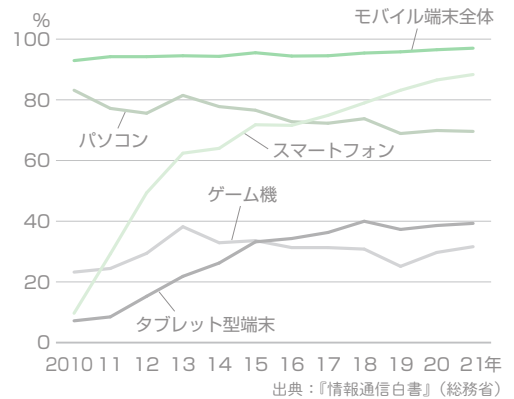
2017年には、スマートフォンの世帯保有率がパソコンの世帯保有率を超えました。

中学生から40代までの世代では、2008年の時点で既にインターネット利用率が9割を超えています。

グラフ1 インターネット利用率の推移

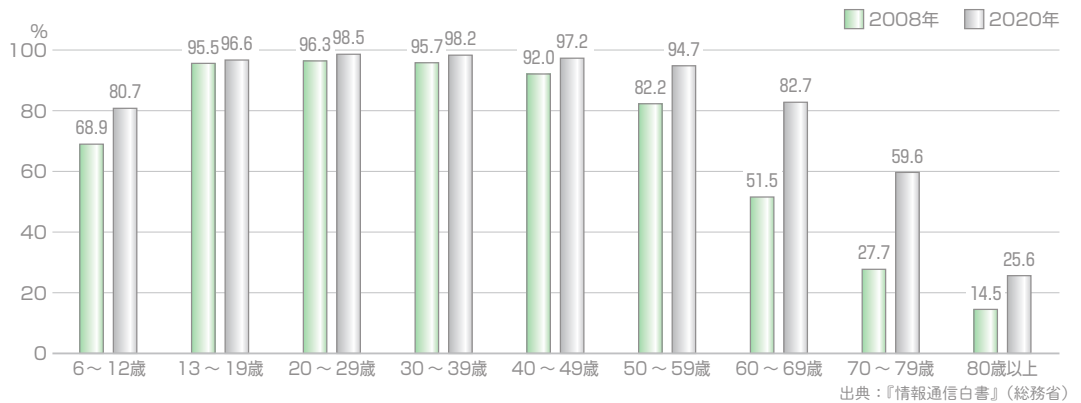


グラフ2 情報通信機器の世帯保有率の推移



グラフ3

年齢階層別インターネット利用率



▼グラフ1～3を参考にして、日本におけるインターネットの利用状況をまとめてみましょう。

3つのグラフのそれぞれの特徴をつかもう。



- ・グラフ1からわかること **90年代後半からインターネット利用率が急上昇し、現在は80%以上が利用している。**
- ・グラフ2からわかること **2010年からスマートフォンの世帯保有率が伸び、2017年にはパソコンを超えた。タブレット型端末の保有率も徐々に伸びている。**
- ・グラフ3からわかること **どの世代も2008年と比較して2020年には利用率が上昇している。中でも、60代、70代の伸びが著しい。**

時間や距離の制限を超えてアクセスできるのが、インターネットの利点の1つです。

自宅にしながら仕事を行う「テレワーク」が定着してきています。

インターネットの活用法とプラス面・マイナス面

▼次の活用法①～④について、それぞれのプラス面・マイナス面を挙げてみましょう。

活用法① コミュニケーションや情報発信



○プラス面 **時間や場所を選ばず発信できる。**

×マイナス面 **正しく伝わらない場合がある。**

活用法② ニュースの閲覧や情報の検索



○プラス面 **すぐに関覧や検索ができる。**

×マイナス面 **誤った情報が紛れている可能性がある。**

主にインターネット上で発信・拡散される虚偽のニュースは、フェイクニュースと呼ばれます。

活用法③ インターネットショッピング



○プラス面 **外出せずに購入できる。**

×マイナス面 **実物を見ることができない。詐欺にあうリスクがある。**

活用法④ オンライン決済



○プラス面 **小銭を出す手間が省ける。**

×マイナス面 **通信トラブルの影響を受ける場合がある。**

外出に支障のある人にとっては、特に重要な意味を持ちます。

偽のWebサイトに誘導して、クレジットカードの番号などの情報を盗もうとするフィッシング詐欺などがあります。

デジタル・ディバイド（情報格差）

デジタル・ディバイド = 情報技術を使いこなす能力のある者となない者、パソコンなどの情報機器やインターネットを利用できる環境にある者となない者の間で生じる格差のこと。

▼デジタル・ディバイドによって不利になりやすいのはどのような人々でしょうか。

高齢者、視聴覚障がい者、低所得者層、発展途上国の人々など。

▼デジタル・ディバイドを解消する方法としてどのようなことが考えられるでしょうか。

パソコンなどICT機器の教室の開催、相談場所の設置。

誰もがインターネットを利用できるようにするにはどうしたらいいだろう。



国は、デジタル・ディバイド解消に向けて技術開発の助成を実施しています。

情報通信技術を利用できる環境が整備されているかどうかは、地域間、国家間の競争にも影響を与えることとなります。